

学校だより

2023.2.28 No.137

〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3

明石高専

<https://www.akashi.ac.jp>

タイのキングモンクット工科大学ラカバン校付属高専(KOSEN-KMITL)4年次1ヵ月研修を実施
(10月3日 大会議室での開会式の様子)



高専女子フォーラム in関西
(12月10日 東大阪市クリエイターズプラザにて)



寮生会イベント「焼き芋」
(11月2日 学生寮にて)



高専祭 専攻科生特別展示
(11月5日、6日 物理実験室にて)

～ 目 次 ～

校長講話	2
高専体育大会報告	3
学生行事	4
卒業・修了にあたって	5
退職教員より	7
教員表彰報告	7
3年生合宿研修報告	8

～ 次 ～

5年生見学旅行報告	9
各種大会・コンテスト報告	10
国際交流活動報告	13
学生支援オフィスより	14
図書館より	14
校内短信・行事予定・学生表彰	16

校長講話

魚住雑考2

校長 土居 信数（どい のぶかず）

■排除から配慮へ -豊かで成熟した社会に相応しい高専教育を目指して-

昨年、明石高専は全国の名門校を取り上げているテレビ番組で紹介されました。本校のこれまでの取り組みや卒業生のみなさまのご活躍などが評価された結果で名誉なことでした。しかし、光の当たるところには影があるもので、入学を許可した学生のうち一部ではありますが、卒業まで導くことができず、途中で別の道に進まれた人もおられます。そうした人たちの中には、いわゆる「ギフテッド」と呼ばれる先天的に顕著に高い知性や優れた記憶力を持ちながら、特定の科目が苦手なために学校を去らなければならなかつた方も少なからず含まれていると思います。

私は、教育方針として「排除から配慮へ」を掲げることにしました。これは多様な学生を受入れ、寄り添い、励まし、応援し、入学した学生全員を卒業させることを目指す決意表明です。

■混ぜる教育の実践 -オンキャンパスのグローバル化-

本校は、グローバル化教育に力を注いでいます。具体的には、英語による円滑なコミュニケーション力を身につけるために、専門学科を含めて英語を母語とする教員を1割程度採用することにしました。すでに、一部の授業は英語で行っています。専攻科ではこれをもう一步押し進め、英語を準公用語にすることを検討しています。

また、学生たちが海外の多様な文化を理解できるように、本校の学生の海外派遣や海外からの学生の受け入れを積極的に推奨しています。ここ数年はCOVID-19の感染拡大の影響で海外との交流は制限ましたが、本年度からは徐々に再開しており、昨年10月にはタイKOSEN-KMITL（タイ高専）の学生19名が本校で1か月の研修を行いました。研修を終えた学生たちは、装置を使った実験や企業見学などを体験することで、技術の理解が深まったなどの好意的な感想がありました。本校の学生たちも同年代ということもあります。すぐに気持ちが通じ合い、互いに刺激を受け、貴重な経験になりました。

社会は人が混ざり合い、対話し、互いに協力し合うことで、より良い方向に発展していきます。本校が進めているオンキャンパスのグローバルは、「混ぜる教育」の実践です。本校は、多様性な人材との磨き合いを通して、グローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

■ “Stay Hungry. Stay Foolish.” -スティーブ・ジョブズのスピーチの言葉-

私は、将来、本校の卒業生の中から、ユニコーン企業を創業する人が出て欲しいと願っています。ユニコーン企業とは、創業してから10年以内に評価額が10億ドルを超える非上場のベンチャー企業のことです。衛星インターネットサービスをやっているSpaceX社や、オンラインゲームのEpicGames社などが有名です。

起業家精神を育成するには、高校の3年間では短いですし、大学生になると人格がある程度できているので少し遅い気がします。高専は15歳から5年間、技術を一貫して学ぶことができ、起業家精神を育成するのに最適な学校です。

“Stay Hungry. Stay Foolish.” (ハングリーであれ。愚かであれ。)

これはアップル社を創業したスティーブ・ジョブズが、米スタンフォード大学の卒業式でのスピーチを締めくくった言葉です。彼自身いつもそうありたいと思っていたそうです。彼のスピーチは世界中の人々に広く感動を与えました。さすがですね。



高専体育大会報告

成果が出せなかつた方たちへ

学生主事 穂本 浩美（あきもと ひろみ）

静かな年明けの中で「高専体育大会報告」をテーマに原稿を書いています。入賞結果を一覧表にすると原稿の割り当て分量をすぐ使い切ることができるので、それでは味気ないですね。何より入賞できなかつた方たちのことを切り捨てるこになりますので、今回は少し違つた視点で高専大会のことを考えてみたいと思います。とは言え、入賞した学生の努力をたたえるのは大切なことですから、まずは入賞結果からお伝えします。

■近畿大会

陸上競技では男子1500メートルで第1位と第2位、5000メートルが第1位と第3位、800メートルでも第1位など多くの上位入賞者が生まれました。女子もランキング種目の3000メートルで入賞、砲丸投では第1位、800メートルでも第2位と上位入賞を果たしました。女子バスケットボール、男子バレーボールがいずれも第1位、ハンドボールは第2位に輝きました。卓球女子シングルス、女子ダブルス、バドミントン女子ダブルスはそれぞれ第1位、女子シングルスは2位でした。柔道では男子73kg級で第2位、水泳は女子100m平泳ぎが第2位という好成績を残しました。

■全国大会

全国大会はやはり壁が厚いです。でもそんな中、男子バレーボールは準優勝、柔道でも男子73kgで準優勝という立派な成績を収めました。また陸上競技では男子3000mSCで第6位、5000m第4位と第7位、女子3000mが第8位、砲丸投が第8位と個人種目の健闘が目立ちました。入賞された皆様、おめでとうございます。

さてここまで書いて、あらためて入賞できなかつた方たちのことを考えてみることにします。練習で怪我をして試合に出られなかつた人、もしくは試合当日アクシデントに見舞われて悔しい思いをした人もいたと思います。でも最も嫌なことですが、怪我もアクシデントも言い訳にならなかつた人もいますよね。チームの主力にならず後輩が出る試合をベンチに座つて見続けていたあなたです。そんな人たちの心に寄り添うこともなく、無常にも季節は夏から秋に変わり冬を迎えました。自然は無慈悲で皆さんのが傷ついた心などには無頓着です。でもそれは敗北なのでしょうか。補欠でいたことで力の弱い人間の気持ちを理解できるようになったかもしれません。怪我をしたことで危機管理能力が高まり、突発的なアクシデントに対応できる力が備わつたかもしれません。それを自覚すれば皆さんの人格はひとつ高いステージに登つたことになります。表彰台には上がれませんでしたが、人生が用意した別の高い場所から美しい景色を見るることができます。あなたでないと立つことのできない場所からどんな景色が広がっているか見てみたいと思いませんか。

企業が部活を続けてきた学生を採用したがるのは、そんな景色を見た人が社会で必要とされるからです。怪我で一人置いていかれた経験、後輩に追い抜かれ屈辱を味わつた体験、それでもあきらめずチームを重んじ自己より他者を優先する、そんなまっすぐな心を持った人が世の中から望まれているのです。いい会社に就職するために部活を続けるのは邪な考えなのでお勧めしません。でも苦しい思いに耐えながら毎日こつこつとやるべきことを続けた先に、思いもよらぬ人生の素晴らしい景色が皆さんのに姿を現す、そんな体験をしてもらいたと願つてゐるのです。

高専体育大会で成果を出せなかつた方たちへ。成果が出なかつたことを前向きにとらえることは、大会で入賞するのと同等の価値があることを覚えておいてください。

学校行事

スポーツ大会を振り返って

学生会体育局 都市システム工学科 3年 梶原 礼智 (かじわら れいち)

皆さん、今年の締めくくりはどのように過ごしてでしょうか？



まず初めに、今年度のスポーツ大会へのご協力ありがとうございました。スポーツ大会の数日前から天気予報を確認し、雨が降らないことを毎日祈っていましたが、期待も虚しく天候に恵まれないスポーツ大会となってしまいました。屋外種目が実施できないなど、競技に参加予定だった方には残念な思いをさせてしまったかもしれません。ですが、最終日の午後には天候も回復し、明るい日差しの下、会場全体が一体となった綱引きを間近で観戦できたり、クラスメイトの努力の甲斐あって私のクラスが総合優勝を飾るなど、非常に良い思い出となりました。今年は学校行事の運営に関わることで、私自身大変貴重な経験ができました。しかしながら、改めてスポーツ大会を振り返ってみると、準備不足や自らの至らない点が山積みで、先輩や後輩、そして同級生に助けてもらってばかりでした。学生会役員のみならず運動部の方、クラスメイトが支えてくれたからこそ乗り切れたのだと身をもって実感しています。本当に周囲の環境に恵まれていることに感謝してもしきれません。

昨年度同様、今年のスポーツ大会は新型コロナウイルス感染対策のため、声出しの禁止などの制限を設けた実施となりましたが、来年度は更に学生の皆さんが出でてスポーツを楽しめるよう、学生会内で協議を進め、よりよい学校行事運営に努めて参りますので、今後も変わらず学生会活動へのご協力よろしくお願い申し上げます。

3年ぶりに

高専祭実行委員長 建築学科 4年 江口 陽花 (えぐち はるか)

今年度高専祭は、人数制限はありましたが3年ぶりに保護者の皆様、地域の皆様にお越しいただくことができました。



学生限定イベントとしての高専祭が2年続き、今年度こそは何か1つでも多くコロナ禍前の高専祭に戻したい、さらなる活気を取り戻したいという想いで決定したテーマがArtpiaです。artとutopiaからできたこの言葉には、校内をアートで埋めつくし、足を運んでいただいた皆様の理想郷となるような高専祭にしたいという意味が込められています。

3年ぶりの外部に解放した高専祭、各教室でのクラス展示、ゲストのステージイベント、体育館での後夜祭などの取り組みに加え、テーマに沿ったイベントや飲食可能な休憩所の設置など新しいことにも取り組むことができました。

コロナ禍から抜けきらない中で何ができるのか先生方と何度も話し合い、感染対策等制限を緩めるにはまだ早いのではないかと立ち止まることもありました。飲食バザーや来場人数の上限など制限が残る部分では、もどかしく感じることもあったと思いますが、それでも楽しんでくださった来場者の方々、力を尽くしてくれた実行委員のおかげで素晴らしい高専祭を開催することができました。実行委員長として過ごした1年間はとても貴重な時間となりました。

最後になりましたが高専祭を実施するにあたり、ご協力頂いた教職員の方々、保護者の皆様、地域の皆様、準備と共に頑張ってくれた実行委員の皆さんに感謝を申し上げます。

卒業・修了にあたって

ゆかいな仲間たち

機械工学科 5年 松尾 順人（まつお らいと）

この5年間、様々な困難がありながらも無事に卒業できるのは、5年間一緒に過ごしたクラスの仲間のおかげだと思います。

クラスメイトは一人一人が勉学、コンテスト、音楽、スポーツなど多種多様な目標に向かって日々鍛錬していました。分野は違えどそれぞれの目標に向かって本気で取り組む姿勢に強い刺激を受けながら5年間過ごすことができ、大変幸せだったと思っています。また定期試験の際には、勉強を教えあってクラス全体で試験を乗り切る雰囲気が常にあったり、卒業旅行では行程表と1つの狂いもなく旅を終えることができたりしたから、個の力だけでなくクラス全体の団結力も強かったように感じます。



春からは一人一人が新しい道へと進みます。明石高専で培った教養や技術力を更に深めていきたいです。

5年という長い時間を共に過ごした仲間達とは、今後の人生でも関わる機会が多いと思います。またどこかで道が交わったときに、成長した姿を見るのが楽しみでなりません。

最後になりますが5年間お世話になった教職員の方々、先輩、後輩、家族、そしてゆかいなクラスメイトの皆さん、本当にありがとうございました。

色々な人に助けてもらった日々

電気情報工学科 5年 土井 雅雄（どい まさお）

高専生活を振り返ると自分は様々な人に助けてもらったなと思います。勉強やレポートで分からぬことがあれば友達や同じ班の人には質問したり課題で困ったことがあれば一緒に協力してくれたり、本当に多くの人に支えられてきました。また、4年生の進路選択の時には先生に色々な面でお世話になりました。自分は本当はなにをしたいのか、どうすればいいのかなど大変ためになるアドバイスをいただきました。面接練習などにも協力して下さり自分の足りない部分などを知ることができました。卒業後はクラスメイトや先生方に会うのは難しくなりますが、クラスメイトや先生方が助けてくれたときの思い出は忘れないと思います。色々な人に助けられた分、将来立派な人間になります。本当にありがとうございました。



またどこかで

都市システム工学科 5年 小原 優輝（おはら ゆうき）

「名残惜しい」そんな気持ちでいっぱいです。何かの縁か、5年間クラスの委員長を務めましたが、やはりこの都市システム工学科というクラスほど居心地の良いものはなかったように思えます。日々くだらないことで笑いを飛ばし、個性の強いクラスメイトと交わす趣味の話で世界が広がっていく、毎日が気づきの多い、刺激的なものでした。レポート提出前夜になると「ああでもないこうでもない」と活発に議論を交わしたのも今となっては良い思い出の1ページです。ここでは書ききれないほどの記憶があふれている濃密な5年間でした。



これからは各々が信じる道を歩んでいくことになりますが、同じ土木を志した仲間として、離れていたながらも共に頑張っていきましょう。また日本、いや世界のどこかで自分の夢を追う元気な姿を見せてください。今度は学生ではなく、社会人としてどこかで笑いあいたいものですね。5年間お疲れさまでした。そして、5年間しがない委員長についてきてくれてありがとうございます。ではまたどこかで！

卒業・修了にあたって

5年間の経験、思いを胸に

建築学科 5年 宮田 元登（みやた げんと）

5年間の高専生活が納得のいくものであったかと言われるとそうではない。自分のやりたいこと、やってみたいことをもっと追求できるはずだった。僕たちが3年の時に新型コロナウイルスの影響で外出自粛となり、授業はオンラインとなった。本来であれば精力的に課外活動に取り組んだり、海外留学をしたり、というのがほぼすべて制限された。正直今でもやるせない気持ちはある。

しかしながら入学から今までの生活を共にしてきたクラスメイトとの思い出、高専だからこそ学ぶことが出来た勉強や活動はかけがえのない財産だ。今後も大切にしていきたい。

春からは編入学や就職などそれぞれの道を歩むことになる。高専での経験、思いを胸に新たな進路先では、自分のやりたいことを突き詰めていく。

最後に5年間の生活を共にしたクラスメイトのみんな、そして献身的にご指導してくださった先生方、支えてくれた家族、すべての方々に感謝します。本当にありがとうございました。



高専生活の7年間

機械・電子システム工学専攻 2年 坪田 大和（つぼた やまと）

今、文章を考えるにあたってふと振り返ってみると、あつという間の7年間だったなとつくづく感じます。本科では基礎学力は勿論、実習により様々な加工技術も学習出来ました。また、3年次のオーストラリア留学や野球部でのフィリピン遠征では海外で野球・現地の子供達と交流など他では体験できないであろう思い出がたくさんあります。専攻科2年間でも機械工学以外の専門科目など、発展した内容を学習できたり、これまでの経験を活かした研究活動によってより成長できたと実感しています。他にも色々記したいですが、それを書くには余白が狭いのでこの辺で締めておきます。



専攻科での2年間

建築・都市システム工学専攻 2年 真鍋 あゆみ（まなべ あゆみ）

専攻科での2年間は、学んだ内容も自身の心持ちは本科とは全くの別物でした。

土木に加え建築、学年全体で受ける授業も多く、各学科の特色を強く感じました。何気なく使う言葉や考えが通じない・基準が異なるなど、自分に根付いたものを幾つも発見しました。それを自覚し、場面毎に適したものを選ぶことが分野横断の第一歩であるように思いました。また、楽しさが大半を占めた本科とは違い、専攻科では修了後を意識して、不安や焦りも大きかったです。卒業まで進めたのは、多くの時間を共有した同学年の皆の存在あってこそでした。仲がいいだけでなく、頼りあえる。そんな彼らは今も、きっとこの先も私の支えです。先生方には、アドバイスや雑談を通じ多方面から導いていただきました。将来、高専での経験や学びを活かし、社会に貢献すると共に人生を謳歌する姿をお見せできるよう、励んでまいります。

色濃く充実した7年間でした。学校関係者の皆様、先生方、そして支え続けてくれた家族に、心から感謝申し上げます。



退職教員より

Where there is a WILL, there is a WAY.

都市システム工学科 神田 佳一（かんだ けいいち）

34年間、明石高専の教員として勤めてさせて頂きました。これまで教科担当、研究活動、課外活動等を通して、多くの教職員や卒業生の方々と楽しい時間を過ごすことができました。特にライフワークとしてきた河川の研究を研究室の学生達とともに続けることができたのは、望外の幸せです。まだまだ、『水を制する』ところまでは程遠いですが、今後も何らかの形で関わっていきたいと思っています。タイトルの言葉は、私が大学を卒業する時に指導教員の先生から教わったもので、困ったときなど、これまで何度も思い出しながら座右の銘としてきました（私は3Wの法則と呼んでいます）。学生の皆さんもこれから幾度となく人生の岐路に立ち、選択を迫られることがあると思います。そんなときには、周りに流されることなく、強い意志をもって進めば、必ず道は開けるものです。健康に留意し、夢に向かって歩んでください。

ありがとうございました

機械工学科 境田 彰芳（さかいだ あきよし）

1990年（平成2年）4月以来、気付けば30年以上の歳月が経過していました。長距離通勤ということが大きいのかもしれません、この期間、とにかく時間に追われ、気分的にも何かと余裕がなかつた気がします。5年前まで、最も削っていたのは電車内で補える睡眠時間でした。4月から、無限の時間を手に入れられる訳ではありませんが、これまでやり残したいくつかのことを完成に向けて進めることや後回しにせざるを得なかつたことに、気分的な余裕をもって取り組めそうで、4月を楽しみにしています。

機械工学科・実習工場の皆様始め、これまで関わった教職員の皆様、学生、保護者、すべての皆様には何かとお世話になるとともに支えていただき、誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

みなさん さようなら！（勉強はだれのために、なんのためにするのか？）

機械工学科 大西 样作（おおにし しょうさく）

2023年3月末で明石高専を退職します大西です。この学校だよりで「みなさんこんにちは」とご挨拶したのもつかの間、2年で退職となり非常に残念です。私は、着任した折にもご紹介させて頂きましたが、35年間原子力発電設備を作るプラントメーカーで働いた後、徳山高専を経て明石高専に来ました。長い社会人生活の経験から着任時2つのことをお話しました。良い技術者、立派な技術者になる為には「国語力を身に付けること」が大切であることと「やり抜く力を身に付けること」が必要であると。やり抜く力は

「情熱」と「粘り強さ」によって決まります。2年経過した今でもこの考えは変わりません。増え不確実性を増す多難な社会を生き抜いて行く為にはこの2つのことが必要条件となると考えます。環境の良い明石高専で勉強できるみなさんはこの点を理解して頂き日々の勉強や諸活動に全力を注いでください。

教員表彰報告

副校長 江口 忠臣（えぐち ただおみ）

明石高専教員の教育研究活動における功績および活躍を紹介します。この一年間に右表に記載のある7名の教員が、それぞれの活動を評価され表彰、顕彰を受けました。教員の活動は教育、研究、厚生補導、地域貢献と多岐に亘っており、広く社会から認識されています。皆様とともに受賞を讃え、さらなるご活躍を祈念いたします。

所属	氏名	令和4年に受賞した賞
機械工学科	加藤 隆弘	功労賞（兵庫県サッカー協会）
機械工学科	田中 誠一	令和3年度国立高等専門学校 教員顕彰優秀賞
都市システム工学科	鍋島 康之	地盤技術賞（地盤工学会関西支部）
機械工学科	森下 智博	学術教育功労（兵庫県）
電気情報工学科	上 泰	第70回電気科学技術奨励賞
電気情報工学科	梶村 好宏	第70回電気科学技術奨励賞
人文科学系	井上 英俊	全国高等専門学校英語教育学会賞

(受賞日順)

3年生合宿研修報告

3M研修旅行を終えて

機械工学科 3年 川崎 碧 (かわさき あお)

僕たち3年機械工学科は、10月27日より1泊2日の研修旅行を行ってきました。訪問先はかがみはら航空宇宙博物館、トヨタ産業技術記念館、ナガシマスパーランドです。バスでの移動で長旅となりましたが僕たち3M3年機械工学科にとって全員で行く初めての宿泊行事で、一同楽しい時間を過ごせました。初日で訪れたかがみはら航空宇宙博物館、トヨタ産業技術記念館では三式戦闘機二型「飛燕」など興味深い展示を見る事ができました。特にトヨタ産業技術記念館で職員の方が生糸の紡ぎ方を実演形式で説明されていたのが印象に残っています。

1日目の夜は全体で食事をした後、名古屋市内を散策したり、部屋でくつろいだりと各自で自由時間を過ごしました。僕は友人と名古屋の夜景を一望できるスポットに行ったのですが、初めて景色が目に映った瞬間、言葉に表せないほどの美しさに感動しました。

2日目はナガシマスパーランドにて白鯨などの絶叫系アトラクションに乗り、最高にアクティブな一日を過ごしました。この2日間でクラスメイトの新たな一面を知ることができ、とても充実した2日間になりました。



研修旅行の感想

電気情報工学科 3年 金子 暖 (かねこ はる)

私たち3Eは10月27、28日の2日間の合宿研修で、アスレチックをしたり、自炊をしたりと、なかなかできない経験をしました。

バスの時間は長かったのですが、友達としゃべったり窓の外の景色を見たりして過ごしました。また、大向先生自身がバスガイドをしてくれたので、あまり退屈しなかったです。最初のアスレチックは、普段あまり体を動かさない私達にとって、とても楽しい時間となりました。しかし、大向先生は着替えがあまりいらないと言ってましたが、とても汚れてしまったので、「先生！情報と違うじゃないですか！」って気持ちでいっぱいでした。

また、夜はコテージで自炊をしました。それぞれの班で作るものは違いましたが、私たちの班はカレーと焼き肉をしました。私は普段あまり料理をしないのですが、おいしいカレーを作れてよかったです。また、先生方が生徒の作ったものを食べるため夜な夜な歩き回ってる姿もおもしろかったです。

2日目はゴミ処理所見学と陶芸をしました。ごみ処理所ではごみの処理の過程を見る事ができました。クレーンゲームみたいな大きなクレーンでのごみを運ぶのは迫力がありました。また、陶芸はむずかしかったですが自分の手で作品を作っていくのは楽しかったです。まだ作品は届いてないので、届くのが楽しみです。

これらの研修旅行を考えてくれた大向先生はすごいと思います。こんな楽しい研修旅行を企画してくださいありがとうございました。

おいCたのC 3C in 三重

都市システム工学科 3年 関 風帆 (せき かほ)

天ヶ瀬ダム見学から始まったC科っぽい1泊2日の合宿研修旅行。コロナ禍に入学した私たちにとって初の宿泊行事でした。1日目は天ヶ瀬ダムの見学後にどこを見ても信楽たぬきと目が合いそうなたぬき村で昼食を食べ、伊勢神宮に行き、おかげ横丁に到着したのが夕方だったので赤福めがけて走りました。食べ歩きというより食べ走ったあとに待ち構えていた旅館の夕食も美味しかったです。横山展望台で朝からリアス海岸を眺め始まった2日目、私の合宿研修のお目当てであった鳥羽水族館で「ジュゴンを見る」を達成し、気づけば行程表で1番謎に満ちていた内宮前で昼食まできました。1日目に夕食があるので断念した伊勢うどんが出てきたのでとても嬉しかったです。お腹も写真も美味しいもので満たされた合宿研修旅行はあつという間で、とても濃い2日間でした。ちなみにおかげ横丁で一番美味しいかったのは出来立てのお団子で、私は讃岐うどん派でした。研修旅行を通してクラスの仲も深まったように思います。楽しい2日間を考えて下さった担任の先生に感謝です。



3年生合宿研修報告

わくわくの2日間

建築学科 3年 山本 真幸（やまもと まゆき）

少し早めの朝。学校に着くと、みんなわくわくしていた。バスとフェリーを乗り継いで1日目の目的地、直島へ出発。直島では事前にくじ引きで決まっていたグループごとに、バスや自転車に頼りながら、さまざまなオブジェクトやミュージアムを訪れた。どこも不思議な組み合わせのメンバーだったが、それぞれにぎやかに散策した。夕方。たくさん歩いてへとへとの中、本土のホテルへ向かう。競輪場をリノベーションした競輪ホテルだ。海がよく見える自転車がモチーフのかわいい空間で、たくさんご飯を食べて、トランプしたりお菓子を食べたり。いっぱい笑って楽しく1日目を終えた。翌朝。また早起きをして、前日よりも馴染んだグループで再び、犬島を散策した。両日ともに多種多様な作品に触れ、瀬戸内の自然や歴史、アートを肌で感じられて、ずっとわくわくしていた。2日間を通して、個性あふれる3Aの仲が深まり、思い出いっぱいの合宿研修となった。



5年生見学旅行報告

機械科関東研修旅行

機械工学科 5年 黒明 慶吾（くろみょう けいご）

私たちは山梨・静岡・横浜に4泊5日で行きました。初日の山梨では私自身、人生初の富士山の5合目に行きました。天気が悪かったので、綺麗な富士山を間近で拝むことはできませんでした。しかし、雪が降っており、みんな富士山そっちのけで雪に興奮してはしゃいでいました。中には半袖で走り回っている友達もいて、年齢は20歳ですが心の中はいつまで経っても中2なんだと改めて感じました。その日の夜は旅館に泊まりました。みんなで温泉に行き、コンビニに買い出しに行き、部屋で集まり、たわいもない話をしながら、本当に楽しく、「機械科最高！」と思った瞬間でした。4日目の自由行動では、私はディズニーシーに行きました。流行りのジャンボリミッキーも踊りました。本当に夢の国にいるような気分だったので、帰るときは「現実に戻りたくない」とみんな口を揃えて言っていました。全体を通して本当に楽しい研修旅行になりました。



5年の成長が創る僕たちの道

電気情報工学科 5年 櫻田 壮人（さくらた そうじん）

私たち5年電気情報工学科は10月に見学旅行で中部地方に行つてきました。5日間の行程で名古屋から飛騨、富山、金沢へと北上するルートをたどり、温泉や世界遺産、自然を満喫しました。クラス全員で地図を片手に歩き回る旅は新鮮で、とても記憶に残る日々でした。

気づけば入学から5年がたち、クラスメイトとはすっかり顔なじみです。よく寝坊する人がいて、たまにチャイナドレスを着てくる人がいて、時にペンライトを振り回している人もいる癖の強いこのクラスですが、入学からの5年間で着実に成長してきました。レポート課題や受験など多くの試練と共に乗り越えてきた仲間と、今回楽しい時間を過ごせたことを嬉しく思います。

この修学旅行を終えて、卒業、そして皆が夢を追いかけてそれぞれの道を切り拓いていきます。寂しさはありますが、支えてくださった多くの方々への感謝を胸に、僕たちはこれからも躍動します。



5年生見学旅行報告

嗚呼、色褪せぬ旅行の思い出

都市システム工学科 5年 小原 優輝（おはら ゆうき）

もっと先の行事だと思っていた5年生の研修旅行、とうとう我々が行く番となりました。当初、北海道行きだったものが横浜から静岡までの周遊旅行となり、どうなることやらと思っていましたが、いざ当日になるとそんな思いは彼方へ消え去っていきました。各地で見た土木構造物について、なぜか？熱く語ってくれた引率の先生の話、普段は見られない級友の素顔、明け方にわたって繰り広げられた語らい、そして「館内着の思い出」、この記事を書いている今でもその情景がくっきりと思い出され、あの頃が懐かしく感じられます。



もうまもなく卒業を迎えようとしていますが、この旅行の思い出は色褪せることなく残ってくれると思います。同じ釜の飯を食った仲間同士、またどこかでこの話を肴に語らいましょう！
追記：今回の旅行の実施にあたり調整いただいた教職員の皆様、そして旅行に行かせてくれた両親に改めて感謝申し上げます。

仲間と旅した4泊5日

建築学科 5年 宮本 真実（みやもと まみ）

昨年10月24日～10月28日、5年生は見学旅行に行きました！私たち建築学科は富士山麓から4日間かけて東京まで北上する関東満喫旅を企画しました。



1日目は静岡県富士山世界遺産センターを訪れ、建築家 坂茂氏が手がけた富士山の美しい曲線を描いた建築に触れるとともに、富士山の歴史・文化・自然を学びました。

2日目は伊豆半島を訪れ、自然によって作り出された堂ヶ島の幻想的な海上洞窟を遊覧船で見学しました。

3日目、4日目では江ノ島・鎌倉での自由散策や日光見学を通じて鶴岡八幡宮や東照宮などを訪れました。伝統的な日本の建築・技法を肌で感じ、学ぶことができました。

4泊5日で沢山の建築を見学できたとともに、クラスの仲をより深めることができました。

行き先変更などで2転3転した今回の見学旅行ですが、先生方や旅行会社さまのご助力のもと、とても素敵な旅となりました。

高専生活も残りわずかな私たちにとって、最高の思い出になりました！

各種大会・コンテスト報告

4年間のロボコンを終えて

機械工学科 4年 森住 曜太郎（もりすみ ようたろう）

中学生のころにテレビで見て以来、ずっと憧れていた高専ロボコン。入学後すぐにロボ研に入部し、4年間全力で全国大会優勝に挑み続けました。今まで先輩方の背中を追い続けていましたが、今年は部長として、部全体を引張っていくことを目標に活動しました。部の運営をしながらロボットを製作していく中で、改めて先輩方の偉大さを実感すると同時に、自分が高専ロボコンだけでなくロボ研というチームが大好きであることに気が付きました。残念ながら地区大会で敗退してしまいましたが、最後まで諦めずチームで一致団結して戦うことができました。



入部してから4年間、チームの仲間おかげで価値ある最高の体験ができました。今年で部を引退しますが、支えてくれた仲間たちをこれからも応援し続けます。本当にありがとうございました、ロボット工学研究部。

各種大会・コンテスト報告

全国高専デザコン2022in有明 空間デザイン部門優秀賞

建築学科 4年 金端 息吹（かなはし いぶき）

今年度のデザコンは、12月10日（土）～11日（日）に福岡県大牟田市で開催されました。空間デザイン部門のテーマは、「2040年 集いの空間」でした。私たちが生きてきた時間と同じくらい先の未来を描くというものです。クラスメートの小堀君、所君と6月からこのコンペに向き合い、私たちは「神鉄八百号（やおごー）」と題して、神戸電鉄を舞台にヒトを運ぶだけではないその時代の車両と、街との境界が無くなる駅をデザインしました。審査は水物といわれていて、審査員によっても発表順によっても結果が異なります。正直、見た目のクオリティでは自信を持てるほど詰められませんでした。しかしながら結果として賞をいただいたことは素直に喜び、この経験を次への糧としたいです。3人の考えがぶつかり合うことも多々ありましたが、審査後に分かち合った喜びは一生忘れません。そして何より私たちが受賞できたのは、先生方をはじめ支えてくれた全ての方々のお力添えがあってこそのことだと思います。本当にありがとうございました。



明石高専、4年ぶりのプロコン！！

電気情報工学科 1年 加藤 優太（かとう ゆうた）

今大会の競技部門では、複数のかかるたを同時に読み上げた音声データから含まれるかるたを予測するという内容でした。大会当日、1回戦目はプログラムに埋め込まれたバグにより敗退してしまいます。バグを修正した後は、敗者復活戦を制し、負けることなく決勝戦にまで進んでいきました。決勝の相手には自分たちより明らかに精度の高いチームもいました。そこで決勝前の昼休憩にとあるアイデアを思い付き、プログラムを修正しました。リスクもありましたが修正は功を奏し、その結果僅差で5位まで上りつめました。今大会を振り返ってみると、臨機応変な対応が求められ、緊張した一方で自分のプログラムがうまく動き、トーナメントを進めていく感動も強く心に残りました。明石高専としては4年ぶりの出場となりましたが、5位という成績を収められ、満足できるものになったと感じます。



英語と向き合った5ヶ月間

建築学科 3年 川路 優祐（かわじ ゆうすけ）

私たちが英語プレゼンテーションコンテストに出場するにあたりお力添えをいただいたハーバート先生、そして英語科の先生方や友人たちに深く感謝申し上げます。

私たちは学内選抜のオーディションから5ヶ月、英語で表現しようと試行錯誤してきました。最初はなかなか文化や表現の違いによってスピーチが伝わらず四苦八苦しましたが、どのように表現すれば、より聞き手の心を動かすことができるのかを意識して仲間たちと話し合い、英語と向き合いました。近畿大会ではその努力もあり「Special Award」を受賞することができました。この英語と向き合った経験を糧に、グローバルな思考でこれからの未来を切り拓きたいと思います。



各種大会・コンテスト報告

全国高専大会(バレー)銀メダルを手にして

建築学科 5年 平井 一朗 (ひらい いちろう)

令和4年8月、愛媛県にて開催された全国高専体育大会バレー競技に近畿地区代表として出場しました。

閉会式で銀メダルを手にした時、悔しさが込み上げてきました。前年準優勝で終わった時に来年こそは優勝!と誓い、江口先生の指導のもと、チーム一丸となって頑張ってきたのでこの結果には満足出来ませんでした。

しかし目標には届きませんでしたが決勝で戦えるチームでバレーができる楽しかったです。コロナの影響で練習ができない中でもマネージャーが撮影してくれている練習の動画でプレーを見直して、各々が練習に対するモチベーションを上げて行くことができました。この1年間の努力や試行錯誤は無駄ではなく次の代への確実な一步になる事と思っています。

声出し応援が出来ない中、コロナ禍で会場まで応援に来てくれた家族の大きな拍手での応援は私達の力になりました。熱心に指導してくださった江口先生、バレーに集中出来るようにサポートしてくれたマネージャーやコーチ、指導教員の先生方、一緒に戦い抜いてくれたチームメイト、見守り続けてくれた家族に感謝しています。

今年、金メダルを手にして喜んでいる後輩たちの姿を今から楽しみにしています。



兼部

機械工学科 3年 高橋 憲司 (たかはし けんじ)

私は柔道部とロボット工学研究部を兼部しています。ロボコンは高専に入ってから、柔道は幼いころから続けていて、2022年で始めて13年になります。兼部するうえで最も大変だったのは、気持ちの整理です。片方をしているときにもう片方のことを考えるとどんどん効率が落ちてしまったので、毎回部活が終わるたびに全部忘れてもう片方に向かっていました。

兼部はしんどいです。思い出すのに時間がかかるついて、特に形のない柔道では、一時期技の入り方がわからなくなったりもしました。同じ日に両方とも大事な行事があって悩んだ結果、結局体調を崩してどちらもいけなくなることもあります。

しかし、よかったです部分もあります。毎回気持ちを整理していたので、目標はぶれず、練習や設計にそれぞれ集中できましたし、精神面も強くなりました。

今回僕はほとんど気持ちで相手に勝てました。今大会の山場となる相手との試合では、本戦の3分間押され続け、決め手の出ないまま延長戦に入ります。10分以上延長したのち、相手の反則で勝利しました。「技がない」といえばその通りですが、私はこの一勝のために気持ちを鍛えていたんだと思えました。最後の最後で、気持ちの勝負で勝てたと思っています。13年間柔道ってきて一番試合を楽しめました。来年はロボコンで学校だよりに記事を書けるよう頑張ります。



国際交流活動報告

令和4年度の学生の取り組み

グローバルエデュケーションセンター長 藤原 誠之（ふじわら せいじ）

令和4年度は新型コロナウイルス感染症に対する各種制限の緩和にともない、国際的な往来も始まりました。8月には、本校からはプリンセスチュラポーンサイエンスハイスクール（PCSHS）のサマーキャンプ補助として、6名の学生がPCSHSチョンブリ校を訪問しました。来年度、全国の国立高専へ入学するPCSHSの中学生に高専を理解してもらうことを目的とし、ドラマ動画を作成するプログラムを実施しました。オープンマインドにタイ人の中学生をファシリテートする本校の学生の姿を見て頼もしく感じました。10月にはKOSEN-KMITLメカトロニクス工学科4年生の学生19名が本校で研修を受けるため1ヶ月間滞在しました。その期間、授業や課外活動で多くの学生が交流して友情を深めました。12月にはThailand-Japan Student ICT Fair 2022 at PCSHS Chiang Raiへ4名の学生が参加し、研究発表を行いました。本年度は新たな試みとし、PCSHSパトゥムターニ校と協働プロジェクトを行いました。3月にはカンボジアOCPプロジェクトを再開し、10名の学生がカンボジアでの海外研修に参加し、シンガポールのテーマセクポリテクニックの学生とともにボランティア活動を行います。本校には国際交流に興味のある学生が集まり、種々の活動を行うStudent ambassador（SA）という組織があります。全国の他高専にも同様な組織があり、令和4年度には全国の繋がりを強化する取り組みが行われ始めました。また、オンラインでフィリピンのデ・ラサール大学付属高校のSA学生と協力してオンライン国際交流イベントの企画運営を行いました。国際交流に興味がある学生は、SAに加わると様々な国際交流イベントを企画運営できます。

令和5年度からトビタテ！留学JAPANの再開も決まり、多くの学生が計画書の作成に取り組みました。この制度は計画の自由度が高く、単なる語学研修に留まらず、計画書を書くことにより自分の将来とグローバルの関係を考える貴重な機会となります。本校ではこの計画書作成を支援していますので、今後も多くの学生に挑戦して欲しいと思います。令和5年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と同じ水準まで早く近づけるよう、海外研修の再開計画を練っています。海外研修は海外に渡航している期間のみが重要なわけではありません。その海外研修へ向けて語学力を磨く。その国の文化について事前に調べ、国際理解の知識を深める。これらを含めて意味のある海外研修となります。特に語学力を磨くには継続的な努力以外に方法はありません。学生の皆さんもそれに向けて十分な準備に取り掛かってください。



学生支援オフィスより

2年目の学生支援オフィスの取り組み

学生支援オフィス長 濱田 幸弘（はまだ ゆきひろ）
学生相談室長 松塚 直樹（まつづか なおき）

学生支援オフィスは、困り事を抱えたときに解決する方法と一緒に探し、実りある学生生活を皆さんに過ごしていただくお手伝いをしています。そして多くの皆さんのお役に立ちたいと考えています。心身の不調や対人関係の問題など、日常生活で何らかの支障が生じれば、信頼できる教員や学生相談室員にぜひ相談してください。早いに越したことはありません。問題の解決には専門家の支援が必要なこともあります。今年度、学生支援オフィスではスクールカウンセラーと看護師を増員し、サポート体制の充実を図っています。原因がわからない漠然とした不安が解消されないという相談でも遠慮はいりません。同じ困り事を抱えた友人がいれば一緒に相談してみるのもいいでしょう。お気軽にご利用ください。

もう一つ、今年度から年に一度「いじめの理解度チェックおよびアンケート」を実施することにしました。悪意はなくとも、知らないうちにいじめの被害者を生んでいるかも知れません。被害者だけでなく周りの方が心を痛めている可能性もあります。そうならないように、年に一度は皆さんにいじめのことを考えていただきたいと思います。アンケートが一つ増えましたが、皆さんの学生生活をより良いものにするため、学生支援オフィスの活動にご協力をお願いいたします。

図書館より

はじめてブックハンティングに参加しました

電気情報工学科 2年 村上 惟（むらかみ ゆい）

みなさんはブックハンティングという取り組みを知っていますか。私たち学生が本屋さんに実際に行き、学校図書館に置く本を学生目線で選ぶという取り組みです。私は今回初めて参加させていただきました。1時間という短い時間を有効的に使おうと思い、インターネットで下調べしてから当日選書を行いました。しかし、実際に本屋で中身を見てみたら想像していた内容ではないものだったり、逆に面白くなさそうだと考えていた本が実は面白い本だったりと、驚きの連続でした。自分の興味分野の専門書にたくさん触れることができたり、普段はあまり読まないジャンルの本に挑戦したりと、とても有意義な時間を過ごすことができました。ネットショッピングが普及し、私自身も今は通販で書籍を購入することがほとんどですが、本屋に足を運んで実際に本を手に取って吟味することの大切さや面白さを改めて知った1日でした。ブックハンティングでは、「学校図書館に置く本」を基準として書籍を選ぶという貴重な体験をすることができます。ぜひより多くの人に利用してもらいたいです。図書館には私たちが選書した本が並んでいます。ぜひ足を運んでみてください。

名著紹介

人文科学系 黒杭 良美（くろくい よしみ）

W・リップマン（掛川トミコ訳）『世論（上）』『世論（下）』（岩波文庫、1987年）

「われわれはたいていの場合、見てから定義しないで、定義してから見る。」（上巻111頁）

みなさんはどれほどの「事実」を知っていますか？みなさんが「事実」だと考えていることは、本当に事実でしょうか？

『世論』（原題はPublic Opinion、1922年発行）と題されたこの本は、人が個人そして集団の考え方やイメージをいかにして形成するかについて書いたものです。今から100年前に展開されたこの論は、単なる情報リテラシーの話ではなく、今問題視されているディープフェイクなどの情報操作や情報戦、民主主義の熟度にかかわる話もあります。この世界は情報で溢れていますが、みなさんは様々な情報を100年前には想像もできなかった方法によって得ています。しかし、今も昔も私たちはほぼ必ず、情報を取捨選択するとき、自らが持つ「フィルター」を通して行います。ここから生じるであろう危うさを、私は冒頭の引用文に感じざるを得ません。何か熱中する対象を持つ人、「フィルター」とは何か気になった人、溢れる情報に疲れ気味な人、「事実」に違和感を持つ人はぜひ読んでみてください。

図書館より

海外の図書館:オランダ・デルフト工科大学図書館(Library Learning Center)

建築学科 水島 あかね (みずしま あかね)

デルフト工科大学図書館は、キャンパス中央に位置する広大なメケルパークの芝生が少し持ち上がったような大屋根を高さ40mの巨大な円錐が貫く特徴的な外観をしています。この図書館とメケルパークは、いずれもオランダの建築設計事務所Mecanooが設計しました。天気の良い日には、大屋根の上で寝転んだりくつろいだりする学生を多く見かけます。中に入ると開放感のある広々としたホールと壁一面の迫力ある青い本棚が目に飛び込んでいます。中央にある円錐内部は光が差し込む吹き抜け空間となっていて、その周りは4層分の自習室となっています。ホールの周りはカフェやSteve Jobsなどの有名人の名がつくミーティングスペースなどが並んでいます。通常は8時から24時まで年中無休で開館。このように一人静かに自習をしたり人と議論をしたり、日々の気分や用途に合わせて場所が選べる贅沢な図書館となっています。実はMecanooの主宰者は同大学の卒業生。自分が学生時代に欲しかった学びの空間を実現したのかかもしれません。

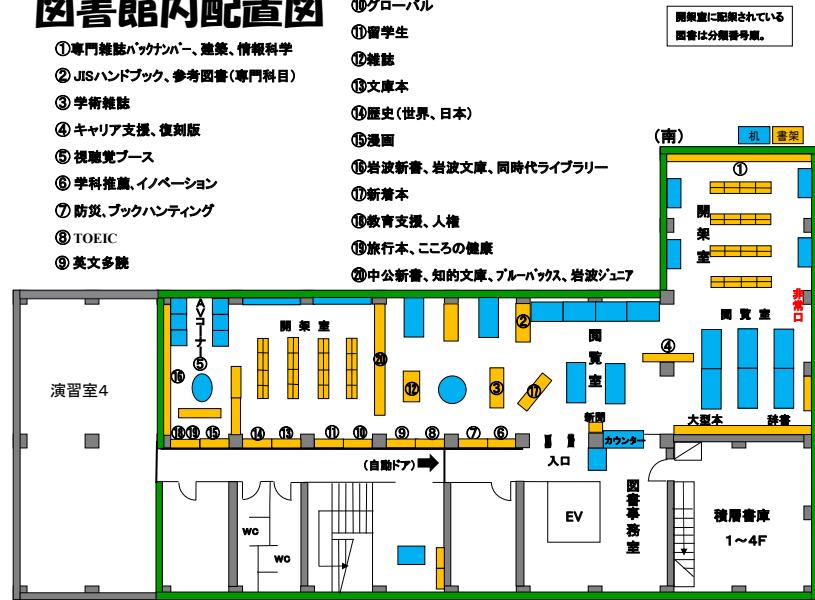


図書館情報

情報図書チーム 丸尾 博司 (まるお ひろし)

情報メディアセンター・図書館棟は、令和4年度後期から改修工事を行っており、図書館は協同学習センターの一番奥の部屋で臨時図書館として2月末まで開館していました。狭い部屋でしたが、一日平均10名ほどの学生が来館し自習等を行う姿が見られました。令和5年4月から新装した図書館が開館します。開館時間はコロナ対策前の平日 8:30～20:00、土曜日 10:00～16:30とし、書架は右図のように皆さんにより使い易いよう配置を変更しております。空調も更新しましたので、学生・教職員の皆さんには新しく使い易くなった図書館を積極的に利用していただくことを期待いたします。

図書館内配置図



春隣図書館ここに再生す

図書館長 荒川 裕紀 (あらかわ ひろのり)

いよいよ4月、図書館が改修され、本格的な運用が開始されます。本校図書館の特徴は、12万冊を超える蔵書量と、その分野の幅広さであります。特に郷土資料群に関しては、1970年から「郷土資料センター」を目指し、収集が始まったこともあり、県内有数の収集量を誇っています。そして学生・教職員のみならず地域住民にまで利用可能としたため、長年にわたり、学校図書館以上の役割を担ってきました。

開架図書のみならず、閉架書庫にまで1年生からアクセス可能であるのも、本校図書館の素晴らしい特徴であります。本年度は1年生に「図書館ツアーア」を実施しました。来年度以降も実施したいと考えています。是非、先人が思いを持って集めてこられた書物に進んで触れていくって欲しいと思います。

開発途上国と先進国の差は、オンラインでは得られない情報量にあります。書を蓄え、大切にした国は栄える。そして万民にその蓄えた書を積極的に開いている国はさらに栄えるのは世界の歴史から見ると明らかです。今後も知識と知恵の涵養に大いに資する図書館として存続していくことを強く願っています。

校内短信・行事予定・学生表彰

●校内短信

月/日(曜日)	行事
9月26日(月)	専攻科入学試験(学力選抜)
10月3日(月)	後期授業開始 全校集会
10月15日(土)～16日(日)	全国高専プログラミングコンテスト(於:Gメッセ群馬) 競技部門 1チーム出場
10月23日(日)	近畿地区高専ロボットコンテスト(於:和歌山県立橋本体育館) 2チーム出場 Aチーム:特別賞 Bチーム:特別賞
10月24日(月)～28日(金)	5年見学旅行(機械:横浜・甲州方面 電気:中部・北陸方面 都市:山梨・静岡方面 建築:静岡・東京方面)
10月27日(木)	2年バス旅行(機械:京都 電気:京都 都市:京都 建築:京都)
10月27日(木)～28日(金)	3年合宿研修(機械:長島・名古屋 電気:蒜山高原とクリーンセンター施設見学 都市:天ヶ瀬ダム・鳥羽水族館 建築:直島・犬島)
11月5日(土)～6日(日)	高専祭 高専祭代休:11月7日(月)、1月6日(金)
11月12日(土)～13日(日)	近畿地区高専英語プレゼンテーションコンテスト (於:奈良工業高等専門学校) シングル部門 2名出場:内1名特別賞 チーム部門 1チーム出場:特別賞
11月9日(水)～11日(金)	寮生球技大会
11月29日(火)～30日(水)	スポーツ大会(11月30日 全校避難訓練)
12月10日(土)～11日(日)	全国高専デザインコンペティション(於:大牟田文化会館) 空間デザイン部門5チーム出場:内1チーム 優秀賞 創造デザイン部門3チーム出場:内1チーム 優秀賞 構造デザイン部門2チーム出場 プレデザイン部門4チーム出場:内1チーム 優秀賞
12月21日(水)	学寮クリスマス会
12月23日(火)	全校清掃日
12月24日(土)～1月5日(木)	冬季休業
1月11日(水)	学寮予餞会
1月21日(土)	入学試験(推薦選抜)
2月15日(水)～22日(水)	後期期末試験・専攻科後期試験
2月24日(金)～28日(火)	学力補充期間

●学生表彰

学術奨励賞
土木学会第68回構造工学シンポジウム 優秀講演賞 建築・都市システム工学専攻2年 中来田 宅
第18回日本物理学会Jr.セッション 奨励賞 電気情報工学科4年 藤島 明日香 電気情報工学科4年 田中 菜月
課外活動優秀賞
中央工学校主催第16回高校生対象コンペティション 佳作 建築学科3年 杉山 萌 建築学科3年 田中 大登 建築学科3年 津崎 佳乃 奨励賞 建築学科3年 松本 太樹 第57回全国高等専門学校体育大会バレーボール競技 準優勝 男子バレーボール部 第57回全国高等専門学校体育大会柔道競技 男子個人 73kg級 準優勝 機械工学科3年 高橋 勝司 全国高専デザコン2022 in 有明 空間デザイン部門 優秀賞 建築学科4年 金端 息吹 建築学科4年 小堀 裕輝 建築学科4年 所 奈樹 創造デザイン部門 優秀賞 建築学科4年 大橋 すみれ 建築学科4年 泉 智尋 建築学科4年 江口 陽花 建築学科4年 佐藤 初音 令和4年度ぼうさい甲子園「しなやかwithコロナ賞」 2021年日本高専学会「活動奨励賞」 D-PRO135° 秋田県立大学 全国高校生建築提案コンテスト2022 優秀賞 建築学科3年 川中 優梨子 建築学科3年 田中 希彩 建築学科3年 増本 唯衣 建築学科3年 大西 治季 第13回高校生の建築甲子園 教育・事業本委員長特別賞 建築学科3年 猪野 将 建築学科3年 福田 一晟 建築学科3年 増本 唯衣 建築学科3年 山口 大空 兵庫県高等学校スポーツクライミング大会 1位 近畿地区高等学校スポーツクライミング大会 1位 全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 9位 都市システム工学科1年 隅谷 樂 寮生会功労賞 都市システム工学科5年 安木 大恵

●行事予定

月/日(曜日)	行事
3月20日(月)～31日(金)	学年末休業
3月22日(水)	第57回卒業式・第26回修了式
4月4日(火)	第62回入学式 開寮・入寮式
4月5日(水)	始業式 専攻科オリエンテーション
4月6日(木)	前期授業開始
4月7日(金)	新入寮生歓迎会
4月13日(木)	健康診断
4月19日(水)	学寮防災訓練
4月22日(土)	後援会役員会・総会
5月10日(水)	寮祭
6月12日(月)～14日(水)	寮生体育祭
6月13日(火)	専攻科入学試験(推薦選抜)
6月24日(土)	文化発表会(発表の部)
6月～7月	近畿地区高専体育大会
7月31日(月)～8月7日(月)	前期期末試験・専攻科前期試験
8月7日(月)	全校集会
8月8日(火)～10日(木)	学力補充期間
8月11日(金・祝)～12日(土)	オープンキャンパス
8月13日(日)～9月30日(土)	夏季休業
8月～9月	全国高専体育大会(於:関東信越地区) (サッカーは12月開催予定)